



平成 25 年 5 月 13 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 松 井 政 彦
(J A S D A Q ・ コード 8 7 0 5)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 小 崎 隆 司
電 話 0 3 - 5 5 4 3 - 8 7 0 5

平成 25 年 3 月期通期（連結・個別）業績見通しに関するお知らせ

平成 25 年 3 月期（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）の連結および個別業績につきましては現在集計中ですが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 25 年 3 月期の業績見込みおよび業績との差異

(1) 連結

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前期実績 (平成 24 年 3 月期) (A)	5,073	△1,231	△1,234	△2,579
当期実績見込み (平成 25 年 3 月期) (B)	5,082	215	341	163
増 減 額 (B - A)	9	1,446	1,575	2,742
増 減 率 (%)	0.2	—	—	—

(2) 個別

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
前期実績 (平成 24 年 3 月期) (A)	492	75	62	△9,875
当期実績見込み (平成 25 年 3 月期) (B)	417	39	24	718
増 減 額 (B - A)	△75	△36	△38	10,593
増 減 率 (%)	△15.2	△47.6	△60.9	—

2. 差異が生じた理由

(1) 連結業績見込み

当連結会計年度におけるわが国経済は、震災復興関連を中心に公共投資の増加が続き、設備投資は全体として弱めながら非製造業には底固さが見られ、減少傾向にあった輸出、生産も次第に下げ止まりとなりました。雇用情勢は引き続き厳しい状態となったものの、個人消費は住宅部門を中心に底固さを維持しました。

商品市況は、貴金属、エネルギーは南欧の財政問題や中国など新興国の成長鈍化で一時的に急落する場面もありましたが高値圏での推移が続き、農産物は米国の干ばつ被害を受けての上昇が一服した後は安定的な推移となり、全国市場売買高は56,227千枚（前年同期比85.4%）となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料は4,393百万円（前年同期比103.0%）となりました。また、売買損益につきましては、石油市場におけるディーリングが好調だったこともあり、211百万円の利益（前年同期比129.4%）となりました。

この結果、営業収益は5,082百万円（前年同期比100.2%）となる見込みであります。また、営業費用につきましては経費削減効果により4,866百万円（前年同期比77.1%）となる見込みであります。これらにより、営業利益は215百万円（前年同期は1,231百万円の営業損失）、経常利益は341百万円（前年同期は、1,234百万円の経常損失）を、それぞれ計上する見込みであります。

このほか、すでに公表しておりますとおり、事業再編損68百万円や厚生年金基金解散に伴う損失165百万円を特別損失として計上したこと並びに本日（平成25年5月13日）別途公表しております「特別利益、特別損失の計上に関するお知らせ」に記載のとおり、貸倒引当金繰入額152百万円の特別損失を計上したことや投資有価証券売却益289百万円の特別利益が計上されたことなどから、当期純利益は163百万円（前年同期は、2,579百万円の当期純損失）となる見込みであります。

（2）個別業績見込み

個別業績につきましては、経営指導料の減少等により営業収益は417百万円（前年同期比84.8%）となる見込みであります。また、営業費用につきましては経費削減効果により378百万円（前年同期比90.6%）となる見込みであります。これらにより、営業利益は39百万円（前年同期比52.4%）、経常利益は24百万円（前年同期比39.1%）を、それぞれ計上する見込みであります。

このほか、本日（平成25年5月13日）別途公表しております「特別利益、特別損失の計上に関するお知らせ」に記載のとおり、投資損失引当金戻入額925百万円を特別利益として計上したことや関係会社株式売却損224百万円を特別損失として計上したことなどから当期純利益は718百万円（前年同期は、9,875百万円の当期純損失）となる見込みであります。

以 上